

札幌市立北の沢小学校の取組【読書：図書館モデル公開授業】

1 研究のねらい

研究テーマ

「公立図書館と連携した読書活動および言語活動の充実と効果的な学び方の育成」

- 図書館モデル公開授業研究とその実践を通じ、公立図書館の効果的な活用と本に親しむ活動の充実を図る。また、さっぽろっこ読書プランに基づく実践の充実に取り組む。
- 日常における言語活動の基礎基本の育成（本校の特色ある学習活動の時間「国語の基礎タイム」の取組）と連携し、豊かな読書活動に向けて「紙芝居」や「絵本」を窓口にした研究実践を推進し、コミュニケーションスキルの向上を図る。
- 紙芝居の読み聞かせ活動や本のしおりづくり、遊びやものづくりなどの本にかかわる簡単なワークショップ等、表現・体験活動を効果的に組み合わせる中で、日常的に本に親しむ心を育てる。

2 取組内容

(1) 中央図書館訪問 1 回目の活動（10 月）

2 学年生活科「としょかんのひみつをさぐるう」

- ◇図書館内における配架の様子や本の分類について調べる言語活動を通して、自分の読みたい本を探することができる。
- ◇公立図書館の機能、学校図書館との共通点や違いに気付く。

①【活動 1】「図書館をたんけん」

- 「子どもの森」の配架の状況や環境構成、案内表示や展示、付属設備などをグループで探し、館内白地図に記録する活動を通して図書館の様々な工夫を知る。
- 図書館に関し、各自が発見した事柄や気付いたことを全体で交流し、学校図書館との共通点や違い、特色について確かめる。職員の方々への質疑も行う。



②【活動 2】「図書館を楽しく利用しよう」

- 借りる本を 3 冊（絵本 1 冊、自分の興味ある本 1 冊）選ぶ。

③【活動 3】「私のしおり作り」

- 大きな図書館で学んだ感想や印象を記した短文と、中央図書館キャラクターシールを組み合わせるしおりに表す。（ラミネーターを持参し、中央図書館で完成。）

④【活動 4】「図書館ボランティアによる紙芝居」

- 次回活動の意欲付けとなる紙芝居の読み聞かせ活動



(2) 中央図書館訪問 2 回目の活動（11 月）

2 学年国語「本の楽しみを広げよう～紙芝居で伝えよう」

- ◇紙芝居の読み聞かせ活動を通じて、読み手と聞き手相互の立場で



読書活動を楽しむ。

①【活動1-1】

- 中央図書館にある大型絵本・超大型絵本を読む。
- 1年生に読み聞かせをしたい紙芝居をグループで選ぶ。
- グループで工夫しながら読み聞かせの練習を進める。
 - ・声の大きさや抑揚・リズム
 - ・紙芝居の「舞台」(枠)から紙を抜くタイミング
 - ・グループで一緒に読む部分、個で読む部分
 - ・読みの「間」の取り方
 - ・登場人物等役割の分担などを考えながら
- 紙芝居の読み聞かせ体験(前半)
 - ・前半3グループの読み聞かせ披露(5分程度×3)

*効果的な読み方、タイミングを工夫しながら
 *聞き手を意識し、その反応を感じながら
 *読む楽しさを感じ合いながら



②【活動2】「紙芝居も借りてみよう」

- 借りる図書を2冊(紙芝居1巻、自分の興味ある本)選ぶ。

③【活動1-2】

- 大型絵本の読み聞かせ体験(後半)
 - ・後半3グループの読み聞かせ披露(5分程度×3)

④【活動3】北の沢小図書ボランティア(保護者)による「ものづくりワークショップ」

- 3種のワークショップ(マジック折り紙、へんしんカード、あやとり)で体験活動

3 成果と課題

(1) 成果

- ◇公立図書館の訪問を複数回設定することで、1回目に「知る」「探す」体験をした児童は活動への自信と親しみをもち、2回目に「楽しく」「活用する」活動に十分浸ることができる。紙芝居や大型絵本等公立図書館ならではの蔵書を生かした児童相互の読み聞かせは相手意識やコミュニケーションの醸成に効果的であった。
- ◇学年がまとめて貸出を受けることにより、返却までの2週間の期間、借りた本を80~100冊規模の臨時学年文庫として教室前廊下に開設した。2年生がいろいろな本を互いに読み合う姿や、他の学年の児童が興味をもって本を手にする姿が見られた。

(2) 課題

- ◇今回の例の活動を学校図書館で行う場合、紙芝居の蔵書や「舞台」が十分でない場合も多いので、公立図書館の貸出を効果的に活用する。(公立図書館では「舞台」も貸出可。)

